

療法士教育の質保証

Quality certification of the undergraduate education system
for rehabilitation therapists

才藤 栄一

一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 理事長
Chairperson, Japan Council on Rehabilitation Education (JCORE)

日本医学教育学会大会

COI 開示

筆頭発表者名：才藤 栄一

演題発表に関連し、開示すべき COI 関係
にある企業などはありません。

指定規則と養成施設

- 理学療法士作業療法士学校養成所指定規則：1966年、文部省・厚生省令
- 理学療法士作業療法士養成施設：3年制の短期大学、3、4年制の専門学校もしくは4年制大学である。4年制専門学校においては高度専門士という大学院入学を可能とする学士と同等の資格が得られる。
- 言語聴覚士学校養成所指定規則：1998年、文部省・厚生省令
- 言語聴覚士養成所：多くは3年制の専門学校、4年制大学。指定科目の既修得者には2年制の専門学校、1年制の短期大学専攻科がある。

リハビリテーション教育評価機構の誕生

1) 全国リハビリテーション学校協会の設立

- ・ 日本リハビリテーション学校協会 (1987年発足)
- ・ 全国理学療法士・作業療法士学校連絡協議会 (1972年発足)
- ・ 日本言語聴覚士養成校教員連絡協議会 (2004年発足)

2012年に統合、設立

→ 療法士の養成校協会が一本化した

2) リハビリテーション教育評価機構の誕生

- ・ 日本理学療法士協会
- ・ 日本作業療法士協会
- ・ 日本言語聴覚士協会
- ・ 全国リハビリテーション学校協会

の支援により、2012年に設立

→ 療法士協会が専門性発展のため資本提供

全国リハビリテーション学校協会

2012年設立

会員校：258校

PT校（234課程/248課程）

OT校（175課程/183課程）

ST校（66課程/67課程）

組織率：258/270 = 95.6%

教育評価の調査

目的：

専門家として育つ過程（養成校）に関する質を担保

方法：

日本リハ学校協会会員は5年に1回の受審義務

指定規則に準拠した外形評価

書面調査と実地調査

調査員は各療法士協会が選出

調査員への研修会を行い標準化

内容では教員数と実習に重点

結果はコメントをつけフィードバック

結果一覧はホームページで公表

2012年度審查結果

候補 課程(校)	受審 課程(校)	適	保留	不適
158 (61)	65 (32)	58	6	1
PT: 70 (56)	24 (20)	20	4	0
OT: 66 (59)	33 (31)	30	2	1
ST: 22 (22)	8 (8)	8	0	0

教育は目的でなく手段



専門性の発展的再生産

療法士の専門性課題

- 1) 医療者役割：
科学的，利他的，行為者
- 2) リハ医療特徴：
活動に焦点，ニード指向
- 3) 歴史，現実課題：
需給に定常期なし
養成校の不均一性
立ち位置の不安定性
年齢構成の課題

リハビリ医療の特徴

- 活動に焦点
- ニード指向



既存医療者から理解されにくい

リハ医学の専門性

階層システムの観点

NCMRR 1993
National Center for Medical Rehabilitation Research

Needs指向



病理とQOLの間

リハビリテーション医学の方法論

生活
再建

活動機能構造連関



治療的学習



支援システム

包括的
医学管理

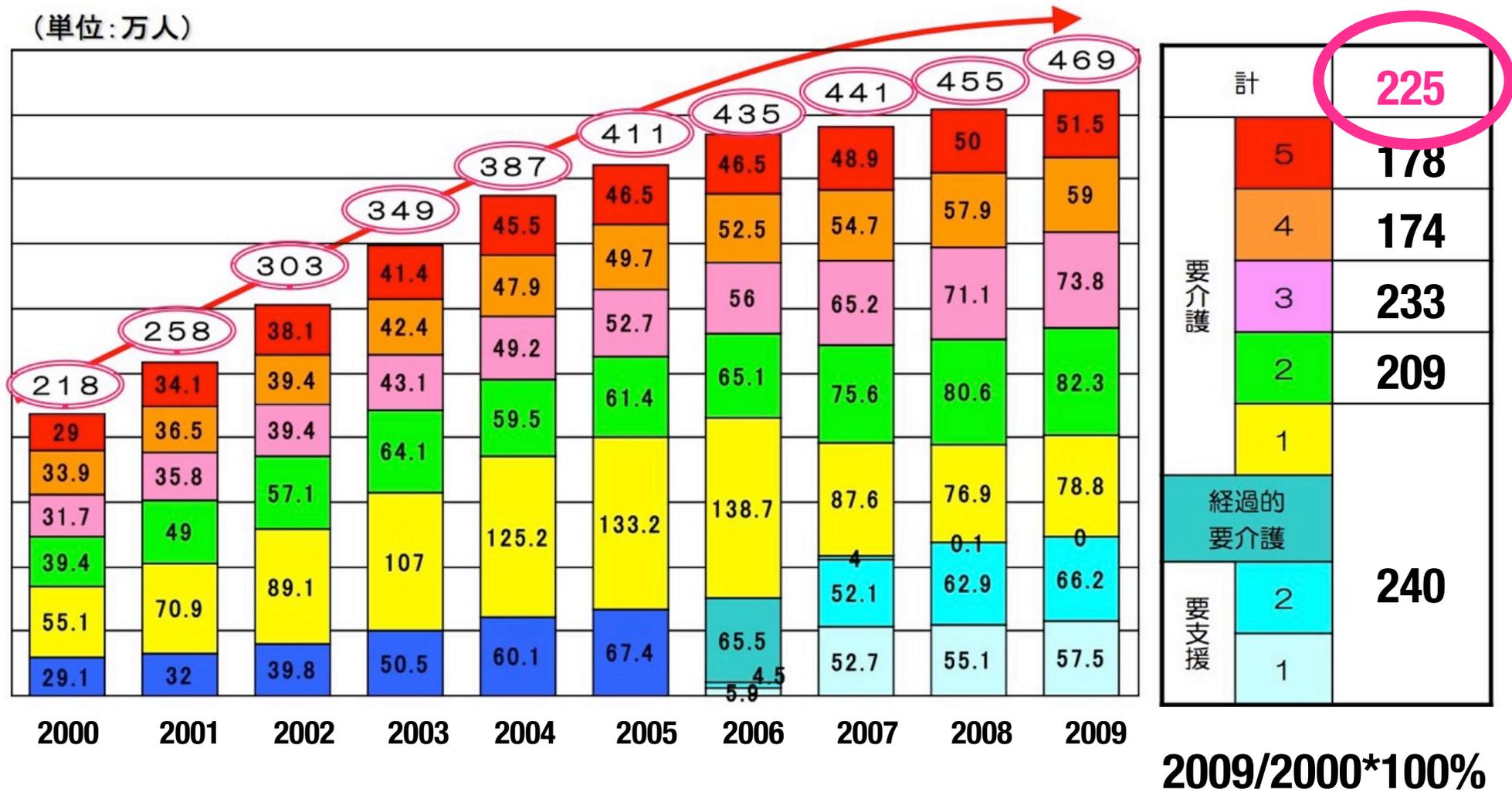


歴史, 現実課題

- 需給に定常期なし
- 養成校の不均一性
- 立ち位置の不安定性
- 年齢/職場構成の課題

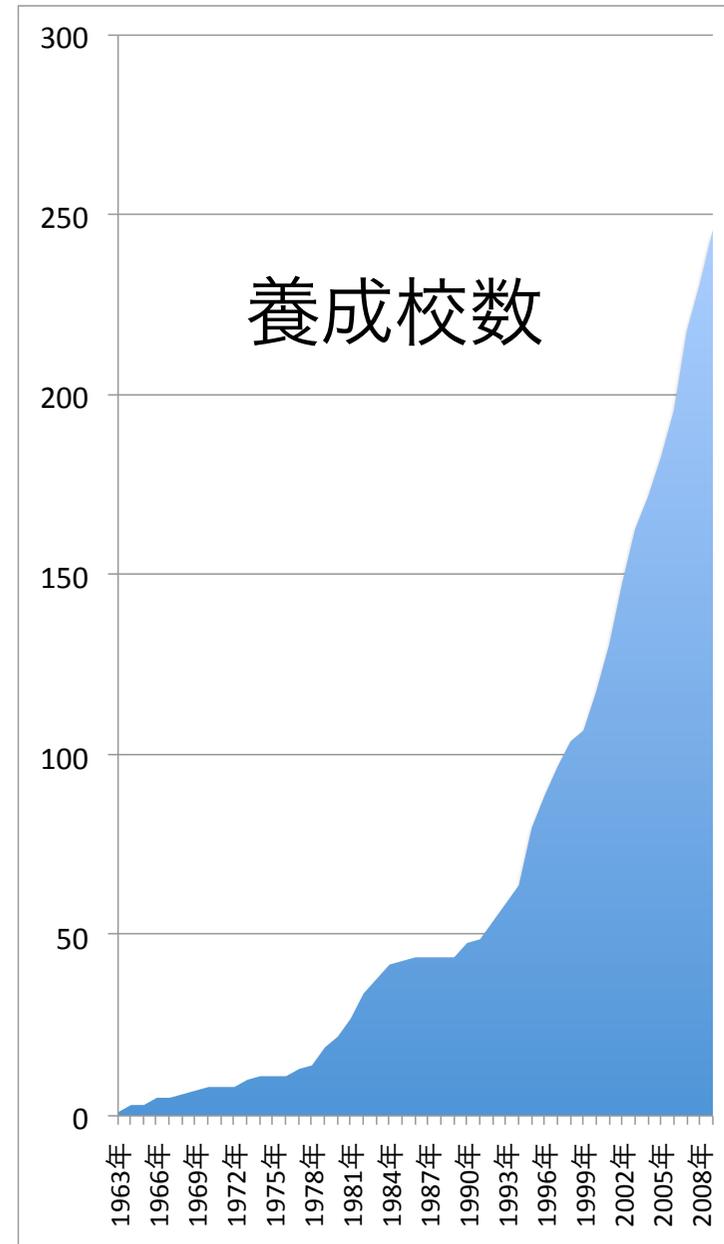
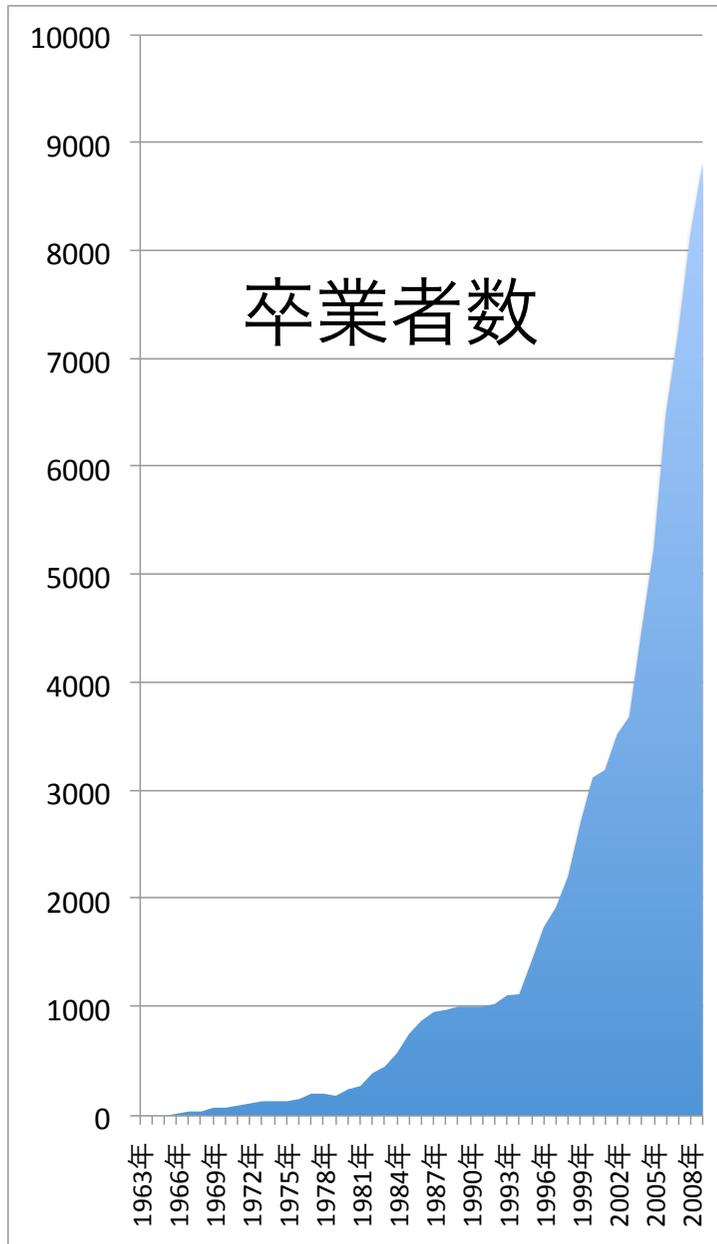
要介護認定者数の推移

(単位:万人)

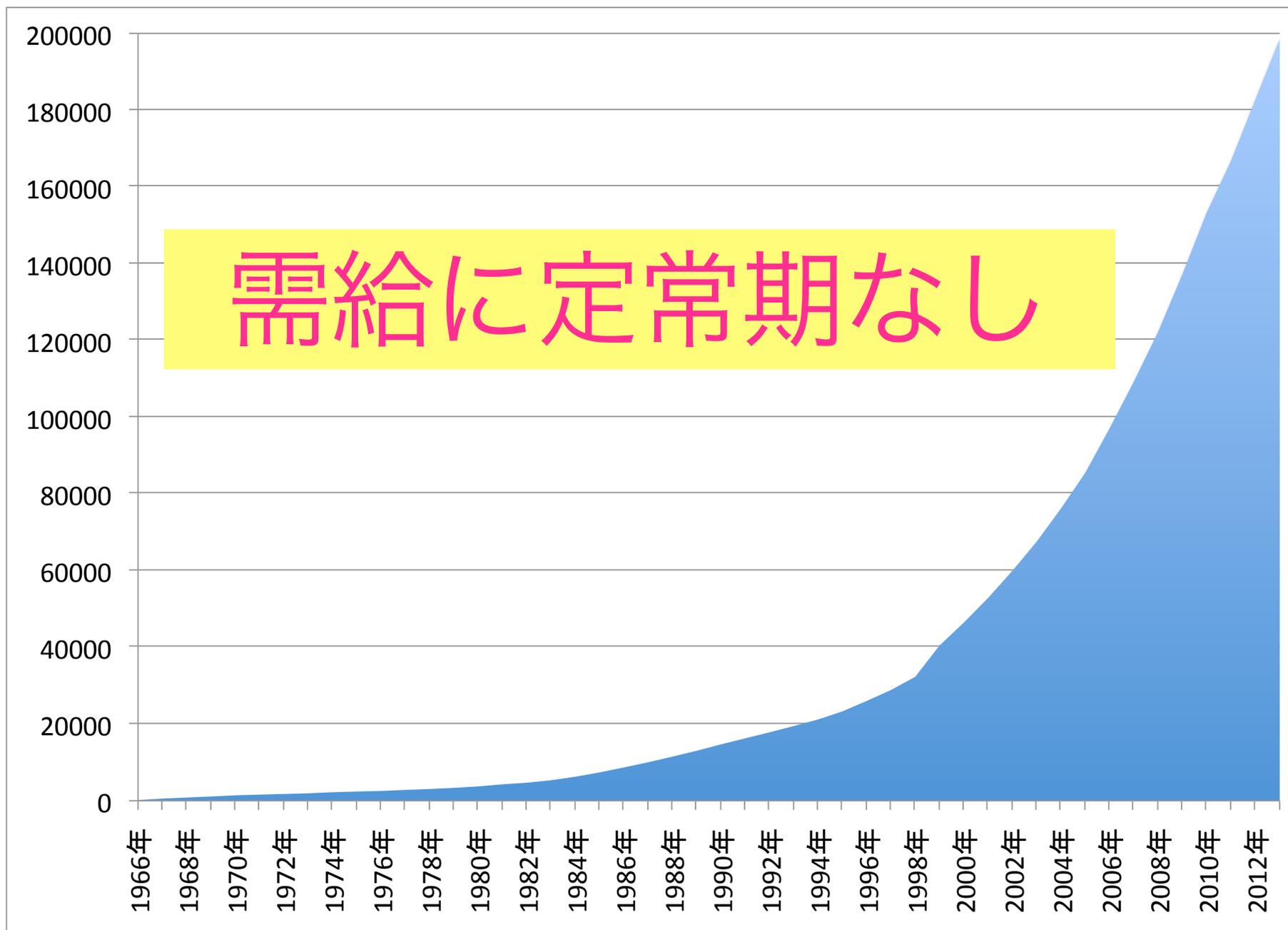


(出典：介護保険事業状況報告 他)

理学療法士養成の推移



療法士総数の推移



療法士数

	2013年 合格者数	累積合格者数
PT	10,104	110,664
OT	4,079	65,897
ST	1,621	21,991
合計	15,804	198,552

一般病院の100床当たり常勤換算従事者数 2011年

内訳

総数	131.1	100.00
看護師	49.3	37.60
医師	14.4	10.98
事務職員	13.2	10.07
看護業務補助者	12.5	9.53
准看護師	9.1	6.94
その他の職員	5.2	3.97
理学療法士(PT)	3.9	2.97
臨床検査技師	3.7	2.82
薬剤師	3.0	2.29
診療放射線技師	2.9	2.21
介護福祉士	2.5	1.91
作業療法士(OT)	2.1	1.60
助産師	1.5	1.14
管理栄養士	1.3	0.99
臨床工学技士	1.1	0.84
その他の技術員	1.1	0.84
歯科医師	0.8	0.61
言語聴覚士(ST)	0.8	0.61
医療社会事業従事者	0.6	0.46
社会福祉士	0.5	0.38
保健師	0.4	0.31
歯科衛生士	0.3	0.23
視能訓練士	0.3	0.23
栄養士	0.3	0.23
精神保健福祉士	0.2	0.15
あん摩マッサージ指圧師	0.2	0.15
歯科技工士	0.1	0.08
診療エックス線技師	0	0.00
柔道整復師	0	0.00
義肢装具士	0	0.00
衛生検査技師	0	0.00
療法士合計	6.8	5.19

種々の養成期間

PT・OT：3年制短期大学，3・4年制
専門学校，4年制大学

養成校の不均一性

ST：3年制の専門学校，4年制大学。

既修得者に2年制専門学校，1年制短期大学。

養成校の1学年定員 2011年

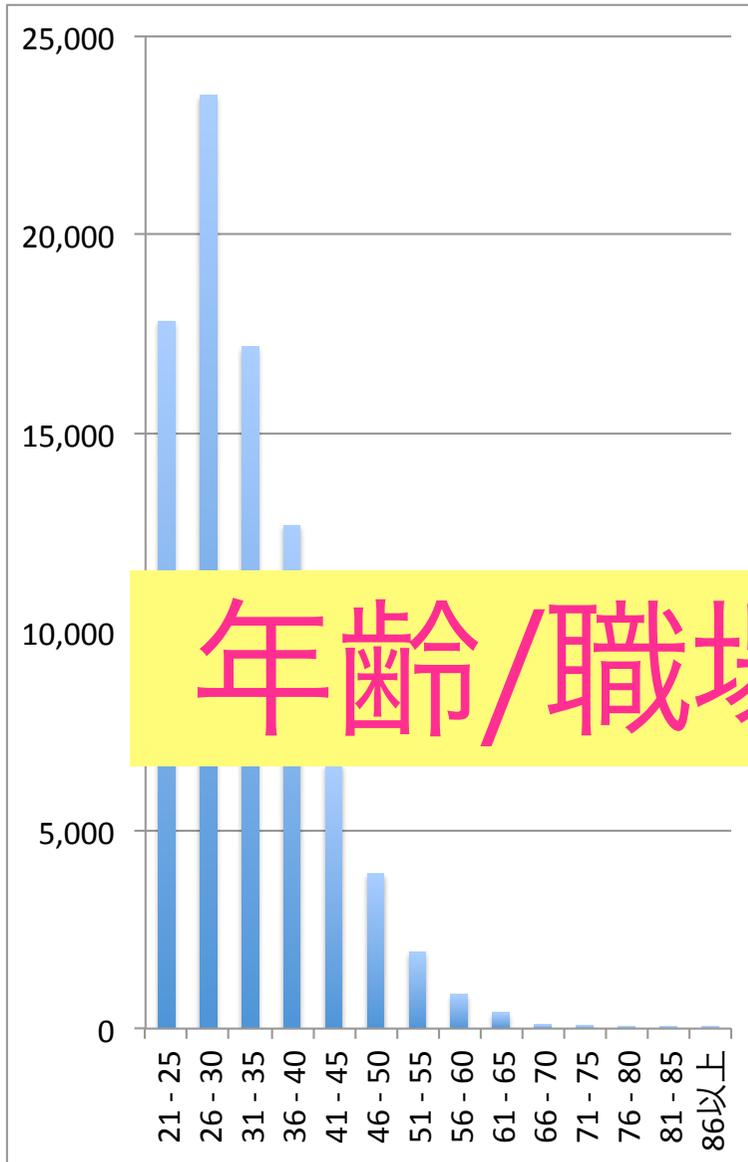
看護系合計	98,494
療法士合計	23,420
医師	8,991
歯科衛生士	8,066
救急救命士	3,335
臨床工学技士	2,615
診療放射線技師	2,576

立ち位置の不安定性

臨床検査技師	1,794
視能訓練士	1,343
義肢装具士	283
柔道鍼灸あん摩等	26,231

理学療法士構成調査 2013

年齢構成 (85,123人)



職場人数 (14,683人)



年齢/職場構成の課題

養成と養成校の課題

- 少子化中の急激増
- 多様な学校形態（特に年限）
- 教員の質担保
- 臨床実習の質担保
- 養成校と教員の“臨床能力”
- 卒後教育の不足
- 中期における“在庫問題”

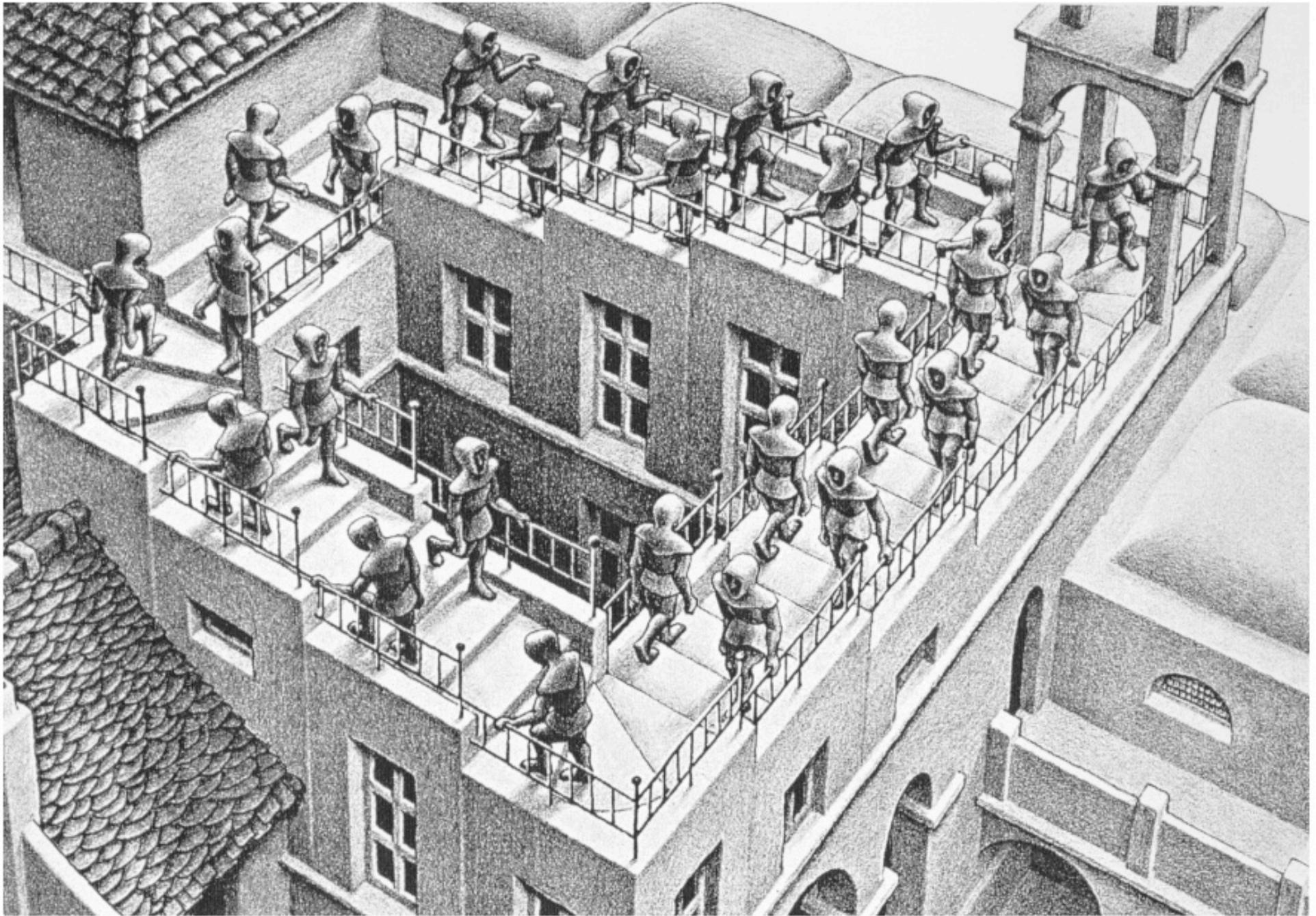
基準化・数値化の副作用

目的は学習であって、教育は手段
多様性、遊び (play) への配慮必須

- 服従性：役割 (学習 vs 教育), 試験・採点
- 非多様化傾向：統一化, 数値化
- 数値化は見えないものを見ない：思考の停止
- 数値化は一軸化 (data reduction)：思考の収まりやすさ

評価機構の今後

- 評価方法の合理化、精緻化
- 指定規則見直し、国家試験在り方提言
- 教員の質向上への支援
- 実習システム向上への支援
- 卒後教育促進への支援



全体と部分を同時に眺めることは難しい

まとめ

- 2012年，養成校協会3組織が一本化し，リハ教育評価機構が誕生した。
- 養成校の質担保のため，各療法士協会が全面協力して評価システムを開始させた。
- 臨床同様，療法士養成は，短い歴史の中，超高齢社会の強い要請のなか，極めて不安定な構造のもとに行われている。
- 全体と部分を同時に眺めながらの難課題である。